

将来の地域農業を見据えた組織経営

基盤整備地区の転作を担う 営農生産組合

農事組合法人姉体営農生産組合

NPO法人いわてアグリサポートネット会員・紺野忠一



作業着手前の確認ミーティング

将来の地域農業を見据え、大規模な農家を中心となって結成され、大豆転作作業を受託している農事組合法人姉体営農生産組合を紹介します。

地区の概況

農事組合法人姉体営農生産組合のある姉体地区は、奥州市水沢区の南端にあり、北上川の西側に位置します。

標高は30〜40mと平坦で、北上川がもたらした肥沃な土壌を活かした農業が行われている地域です。全域が沖積層で県内でも生産性の高い農業地域といえます。

設立の経緯

姉体地区経営体育成基盤整備事業が平成9年度に採択され、平成10年度に事業着手、平成19年度に事業完工しました。

た。事業規模は、面積374・1ha、受益者数523人、

事業費54億円で、農用地の基盤整備事業が実施されました。

この事業の実施に伴い、平成15年度に現在の農事組合法人姉体営農生産組合の前身となる「姉体農作業受託組合」が21名の組合員で、担い手育成と農業経営の安定を目的に設立されました。

この姉体農作業受託組合は農作業を担う組織として位置付けられ、事業推進に大きな役割を果たしました。

設立・役員体制

平成19年4月、品目横断的

会社の概要

名称●農事組合法人 姉体営農生産組合
代表●組合長 千葉 栄
設立年月●平成19年4月
資本金●1,115万円
構成員●19名
役員等●理事6名、監事2名、事務局1名
所在地●奥州市水沢区姉体町吹張29
電話&FAX●0197-26-3765

経営内容

事業内容●大豆転作作業受託
転作受託面積●70ha
受託農家数●140戸
事業収入●8,600万円
格納庫●1棟(借用)
所有機械●汎用コンバイン3台、
播種機6台、ブームス
プレイヤー1台、カル
チャー1台



組合長 千葉 栄さん

経営安定対策事業（当時）に加入し、効率的な事業推進を図るため、姉妹農作業受託組合を発展的に解散し、農事組合法人姉妹営農生産組合を構成員19名で設立しました。

構成員は、個別で耕起から田植え・収穫等の稲作の作業を受託している稲作経営主体の大規模農家の方々でした。

農事組合法人姉妹営農生産組合の役員体制は、理事6名、監事2名で構成されています。組合長は千葉栄さん、副組合長は佐々木悟さんが務め、専任事務局を1名置き、事業計画に基づいて組合員の意向を踏まえ運営しています。

作業受委託の調整や作業計画等は役員会で協議して決定し、会計経理及び受委託契約等の事務処理は事務局が行っています。

構成員の特徴

構成員は、稲作経営が盛んなこの地域でも水田面積を大

きく所有している中核的な専業農家で、1戸あたりの稲作経営面積は平均約10haと大きく、最も大きい人は30ha規模の経営を行っています。

したがって、構成員は自身の経営では大規模稲作経営を行い、一方、営農生産組合では大豆転作作業を担当している状況です。

営農生産組合の特徴

地域や大豆作業を委託している農家から、作業が丁寧で経理処理がしっかりしているとの評価を受け、営農生産組合への信頼が年々高まっています。また、現在、構成員は60歳代が中心となっていますが、構成員の中には20〜30歳代の農業を継ぐ担い手が出てきていることは、他に見られない事例として関係機関では注目をしています。

農用地の利用集積と担

い手育成

基盤整備事業に伴い、事業

着手以来「高生産性農業集積促進事業」を活用して担い手が65%以上集積することを目標に事業展開してきましたが、平成24年度に目的を達成して事業を終了しました。

この事業の取り組みは主業型農家の育成と営農生産組合の充実発展につながったものと考えられます。

所有農業機械等

農業機械の格納庫は、経営を休止している豚舎を借りて利用しており、営農生産組合としては土地、建物等は所有していません。

営農生産組合が所有している農業機械はすべて大豆作業用機械だけです。その他組合が利用しているトラクタ、トラック、草刈機等は必要に応じて構成員から借り上げて作業を行っています。

現在、所有している大豆作業用機械は、大豆播種機6台、汎用コンバイン3台（90PS

1台、43PS×2台）、ブームスプレヤー1台、カルチャ11台などです。

大豆転作の作業体系

営農生産組合の大豆栽培は次の作業体系で行われています。

種子

大豆品種はリュウホウで、全量が更新種子です。

耕起等

播種前の耕起等は、組合員が所有するトラクタを借り上げて行い、丁寧な深耕することを心がけています。

播種作業

6台の播種機ごとに班を編成し大豆の播種作業を行っています。現在は、降雨等による湿害回避のため、従来よりも畦を高くして播種する営農生産組合独自の畦立て栽培にして生産性向上を図っています。

雑草防除

ブームスプレヤー及び



高畦立て播種



病害虫防除及び雑草防止のブームスプレーヤー作業



汎用コンバイン収穫作業

動力噴霧機で6月下旬から7月にかけて除草剤を散布して雑草防止を行っています。また、雑草が目立つ場合は、8月中旬以降に組合員が十数名で刈り取り除去をしています。

病害虫防除

種子消毒を行うとともに、紫斑病及びマメシンクイガ防除は防除基準に基づき8

収穫乾燥調整

月下旬から9月上旬にかけて薬剤散布をしています。収穫は汎用コンバイン3台により10月下旬頃から始まり11月中旬にかけて収穫をしています。

成果

また、生産した大豆は全量を農協に出荷しています。

最も大きな成果は、地域の個別農家が転作に大豆を作付けしようとしてもできなかったことが、営農生産組合が組織されたことで可能になったことです。これは、個別では機械装備ができず労働力不足で大規模に大豆を作付けることは難しかったからです。

用地の集積並びに担い手育成がなされたことと思われま。構成員(組合員)には後継者が育ち、今後とも営農生産組合の充実発展が期待されます。栽培技術面では、高畦栽培により湿害問題を回避し生産力アップに取り組み、丁寧な作業と雑草対策に力を入れて生産性を高めたことで、地域農家から大きな信頼を得たことと思われま。

今後の課題と期待

農事組合法人姉体営農生産組合は大規模稲作経営農家から構成されているため、今後は個別の稲作経営と営農生産組合との出役労働が競合しない工夫が必要と考えられます。

また、地域農家や作業委託農家からも信頼され、地域農業の推進役になっている営農生産組合は、今後とも政策等の変化があっても継続的に発展していくものと期待されています。